

日本人ノーベル賞受賞者(理系)

- | | | |
|-----------|--------|---------|
| 1) 1949年 | 湯川秀樹氏 | 物理学賞 |
| 2) 1965年 | 朝永振一郎氏 | " |
| 3) 1973年 | 江崎玲於奈氏 | " |
| 4) 1981年 | 福井謙一氏 | 化学賞 |
| 5) 1983年 | 利根川進氏 | 医学生理学賞 |
| 6) 2000年 | 白川英樹氏 | 化学賞 |
| 7) 2001年 | 野依良治氏 | " |
| 8) 2002年 | 田中耕一氏 | " |
| 9) 2002年 | 小柴昌俊氏 | 物理学賞 |
| 10) 2008年 | 小林誠氏 | " |
| 11) 2008年 | 益川敏英氏 | " |
| 12) 2008年 | 南部陽一郎氏 | " (米国籍) |
| 13) 2008年 | 下村脩氏 | 化学賞 |
| 14) 2010年 | 根岸英一氏 | " |
| 15) 2010年 | 鈴木章氏 | " |
| 16) 2012年 | 山中伸弥氏 | 医学生理学賞 |
| 17) 2014年 | 赤崎勇氏 | 物理学賞 |
| 18) 2014年 | 天野浩氏 | " |
| 19) 2014年 | 中村修二氏 | " (米国籍) |
| 20) 2015年 | 大村智氏 | 医学生理学賞 |
| 21) 2015年 | 梶田隆章氏 | 物理学賞 |



日本人受賞者**24人** (2015年10月現在) の内
21名 (87.5%) が理系
(上記の他に文学賞2人・平和賞1人)

※フレイザー図書館由来のSir William Fraser氏が学長を務めた
560年以上の歴史があるイギリスのグラスゴー大学からは、
OBや教員などノーベル賞受賞者を7名輩出しています。

(今回受賞の)2人が謙虚なのは、人柄もある
だろうが、科学が“積み上げ型”の学問でも
あるからだろう。

(聖教新聞「名字の言」2015.10.9より抜粋)

大村智博士は自然の細菌から感染症の薬を開発しました。

大村さんは過去の研究の蓄積と、共同研究者の重要性を強調する。自身は大量の書物を読み、幅広い知識を得て、常に全体像を把握するようにしていたという。「今までやってきたことをしっかりやっていきたい。郷里の山梨県のためにできること、地方再生は教育による人材育成からだ」と語った。

(聖教新聞 News pick up 2015.10.14付より抜粋)

梶田隆章博士は「ニュートリノ」に質量があることを証明しました。

今、会いたい人として小柴さんの名を挙げ、「先生のおかげで(賞)取れた。直接お礼をしたい」と語った。ニュートリノ研究があらためて脚光を浴びたことについては、「研究に弾みがつくのであれば非常にうれしい」と述べ、研究仲間にエールを送った。スーパーカミオカンデに続く「ハイパーカミオカンデ」の構想もある。これらの装置には日本の高い技術力が必要で、次世代の産業に役立つ。

(聖教新聞 News pick up 2015.10.14付より抜粋)

11/4~30の企画展示は
” Congratulations Nobel Prize 2015 ! ”
—日本人受賞者関係図書と歴代の受賞者に学ぶ—
と題し開催いたします!